

さんむのふるさと散歩

NO.55

市内の忠魂碑について

皆さんは、学校や公民館などの一角に、人知れずたたずむ石碑（注1）をみたことが有りますか？

今回のふるさと散歩は石碑の中から忠魂碑について取り上げてみます。

写真1は、松尾地区末広神社脇にある市内最古の忠魂碑です。明治16年に建立されました。この碑には、西南戦争（注2）に従軍（注3）し、戦死した松尾地区出身兵士5人の名前が刻まれています。

この碑文を書いたのは、彼等を指揮した皇族の有栖川宮熾仁親王。そして彼等が戦った相手方の大将は、西郷隆盛です。



写真1

有栖川宮と西郷は戊辰戦争（注4）の折、新政府軍の司令官と参謀（注5）という間柄でした。かつての上司と部下が戦うことになるのは…歴史の皮肉を感じます。

時は流れて、明治27年日清戦争（注6）・明治37年に日露戦争（注7）が勃発します。両戦争は、当時大

国と言われた清やロシアを相手に、国の存立をかけた一大事でした。

郷土出身の若者たちも多数従軍し戦死者を出しました。そして戦争が終わった後に彼等を指揮した司令官（乃木希典や一戸兵衛といった将軍）が碑面を書いて、忠魂碑が建立されてゆきました。

その後も度々戦争が勃発し、昭和16年にアメリカ・イギリス・オランダとも戦端を開くことになりました。

写真2は昭和18年、成東地区旧大富小学校の裏山に建立された忠魂碑（忠霊塔と表示してある）。



写真2

碑面には、大富村の明治維新から太平洋戦争の戦死者が刻まれています。

この碑は市内で最も立派な作りで、碑文を書いたのは当時の陸軍

大臣（首相兼務）東条英機です（写真3）。

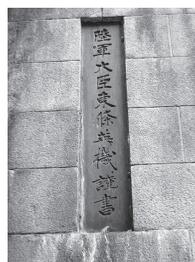


写真3

戦時中にこれだけ立派なものを建立するとは、村として相当力を入れたようです。

昭和20年、日本の敗戦により、長かった戦争の時代は終わりを迎へ忠魂碑は作られなくなりました。

最後になります。市内には31基（内訳：山武7・松尾9・成東12・蓮沼3）の忠魂碑が残されています。

注1：石碑は大きく分けて、次の種類がある

忠魂碑（主に戦死者を慰霊するためのもの。忠霊塔、表忠碑等名称はさまざまあるがここでは一括して忠魂碑として扱う）

記念碑（その場所にあった組織や事件を伝えるもの、農地改良・河川改修等の大規模な工事の落成を祝うもの）

頌徳碑（地域のために尽くした人物の遺徳を讃えるもの）

注2：明治10年（1877）、西郷隆盛を中心とする鹿児島士族の反乱

注3：戦争に行くこと。日清太平洋戦争までの千葉県出身兵士の戦死者は5万8千人

注4：慶応4年（1868）、新政府と旧幕府側のとの間で戦われた内戦

注5：司令官の補佐役

注6：日本と清（当時の中国）が戦った戦争

注7：日本とロシアが戦った戦争

歴史民俗資料館からのお知らせ

来年は、太平洋戦争終結70周年という節目の年です。

資料館では、今回取り上げた忠魂碑を始め、市内に遺されたさまざまな資料により戦争の時代を振り返り学んでいただく機会を提供するため『太平洋戦争終戦七十周年記念展』の開催に向けて準備を進めています。

市民の皆様からの資料・情報の提供をお待ちしています。

歴史民俗資料館
☎(82)2842